理学部生命理学科４年
王愛里

省エネアイデアコンテスト__提案説明書

本企画では、以下の点を意識しました。

A）人は自分に直接利益の無いことにはあまり熱心にならない可能性が高いこと。

B）人は、直接利益のなく、さらに労力が必要なことにはことさら熱心にはならないこと。

A について、大学での省エネを大学の構成員全員が自然に意識する状況はかなり作り出すことが難しいと考えます。例えば理系の実験系研究室であれば、毎日自身の研究を進めることで頭の中が占められるからです。そのほか、自身の生活や学業で毎日を精一杯生きている場合、環境問題や省エネまで気が回りません。また、人は興味の無いことには積極的には行動しない性質があると考えます。ここでは、**1. 各地区の建物に電気を発電する自転車を設置し、随時使用可能にすることで電力を生み出す**という案で構成員にもメリットが有る状況にしました。個々人の QOL を上げながら電力を楽しんで生み出すことができる可能性があると思います。試験的な導入を推奨します。

B について、本コンテストの案の集まりがあまりよくないというメールを受け取りました。漠然とした環境問題に対し直接働きかけようと考える人は少数です。また、“馬を水辺に連れて行くことはできても水を飲ませることはできない”という言葉があるように、人を動かすということは環境問題に限らず非常に難しいものです。そこで、**2. 人が多く出入りする建物の入り口に振動発電床を整備し電力を生み出す**という案では、人の行動は変化させず、そこに新たにプラスの要素を付与することを意識しました。

次に、現在はデジタル化が進み、多くの大学構成員が SNS を使用しています。省エネに対する本学の取り組みとしては、名大ポータルに電気使用量を掲載していたり、施設統括部のサイトにエネルギー使用量などの様々なデータを載せていたりしていると思います。しかし一構成員としての本音を申し上げますと、普段はそこまで気にとめる内容ではないと判断しています。（名大ポータルの電気代は時々驚きますが。）また、数値のみを見てもそれが目標値に対してどうであるのかという点が現時点では見にくいと考えています。そこで **3. 名大ポータルや施設統括部のエネルギー使用量、電気代などのサイトに目標値を設定**という案を提出します。ゲーム感覚で目標を達成しやすくなる効果を期待します。こちらに関して、SNS の１つである Twitter に名古屋大学エネルギーセンターbot（@EnergyNagoya）というアカウントが存在しますが、このアカウントのツイートする内容が現時点の物を反映しているのかが分からない状況になっています。こちらを見直し、また博士課程進学者推進の案内のような総長のユニークさを取り入れた新しい広報があると更に良いと考えます。

最後に

今回の省エネコンテストでは、HP には“～「こんなことやって省エネやってます」など皆様から“アイデア”をお寄せください。“とありますが、提出形式に関してはかなり心理的抵抗が大きいと感じました。環境問題は解決に時間と根気がいるものだと思います。現代の速く、楽にという人々の様式にはそぐわないためなかなか取り組みが難しいですが、参加する人のメリットの提示や、参加へのハードルを下げることでより取り組みやすくなると思います。また環境サークル Song of Earth など、学生の意見も柔軟に取り入れてほしいと考えます。省エネアイデアコンテストで大学が次の行動への一歩を進めることを祈っています。